

環境報告書2023

2023/4/1-2024/3/31

日研フード株式会社



編集方針



- ◆ この報告書は、当社の環境に配慮した姿勢と、環境負荷の低減を図る活動の進捗状況を確認するとともに、関係者の皆様にお知らせすることを目的とし、作成しました。
- ◆ 本環境報告書の対象期間は2023年度（2023年3月21日～2024年3月20日）です。
- ◆ 記載対象範囲は当社全事業所(営業所含む)ですが、「工場における物質とエネルギーの流れ」及び「環境目標及び実績」については、本社工場が主対象です。
- ◆ 編集にあたりましては、環境省発行の「環境情報ガイドライン」(2012年度版)を参考に作成しました。

目次

- I. 企業目的・社是
- II. 環境方針
- III. 工場周辺の環境に対する取り組み
 - ・ばい煙測定　・騒音、振動測定　・臭気測定　・排水浄化の取り組み
- IV. 地球温暖化防止への取り組み
 - ・工場での取り組み　・事業場での取り組み　・過去の取り組み
- V. 環境コミュニケーション
- VI. 工場における物質とエネルギーの流れ
- VII. 環境目標及び実績
- VIII. その他環境負荷データの推移
- IX. 当社全事業所のエネルギー使用量
- X. 環境関連への違反・訴訟の有無

I. 企業目的・社是

企業目的

健康貢献(最大多数の最大健康)



社是

我々の誓い

今日一日力と勇気と信念をもって、我々の計画と目標達成のため、自己のすべてを活かし切る事を誓います。

我々のモットー

頂上を目指してザイルで行こう。

頂上を目指して我々の使命を自覚し、たゆまぬ前進をしよう。

我々の使命

日に日に各自全人格の向上に努め、保健に留意して、食品界に役立つ人間に必ずなる。

Ⅱ.環境方針

環境方針

私たちは、食品製造に携わる企業として、この地球環境を守ることを使命と考えます。自然から恩恵を受けるだけでなく、環境へ配慮する企業として、全員で環境保護活動に取り組みます。

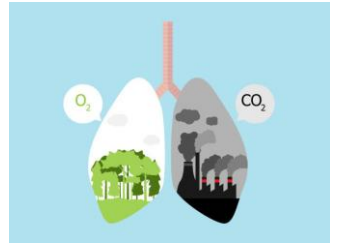
- 1.事業活動が環境に与える影響を考慮し、エネルギー使用の管理体制およびリサイクル推進を含めた持続可能な資源の利用と生態系を保護するため、汚染予防と環境保護に努めます。
- 2.環境関連の法律、規制及び私たちが同意する協定などの要求事項を順守します。
- 3.環境目標の成果を向上させるための実施計画を定め、着実な実行と定期的な見直しを行い、継続的に改善します。
- 4.この方針を、サイトで働く全員で理解し、そのための教育を実施するとともに、社外に必要な環境情報を公表します。



Ⅲ.工場周辺の環境に対する取組み



当社の本社工場では、大気汚染・水質汚染防止のため袋井市と「環境保全協定」を締結しています。ボイラー排出ガス基準及び河川放流水の水質管理は、協定で定めた基準に従い管理しています。



- ◆ ばい煙測定〈外部業者に委託〉
大気汚染防止法に準じ、年2回実施しています。
燃料としてLNG(液化天然ガス)を使用、袋井市と締結している「環境保全協定」の基準で管理しています。

2023年度は、通年で基準を遵守できています。

当社の本社工場では、工場敷地境界で定期的に騒音・振動、および臭い(臭気指数)の測定を行っています。

11 住み続けられる
まちづくりを



◆ 騒音・振動測定

騒音・振動規制法に基づき、下記条件で年1回自主モニタリングを実施しています。

- ①測定場所：サイト敷地境界4ヶ所
- ②測定頻度：1回/年
- ③測定時間帯：騒音規制法・振動規制法及び静岡県公害防止条例の該当する時間帯
- ④測定環境：サイト稼働中及び停止時、両方を測定



● 2023年度測定

サイト稼働時の騒音測定で、基準が遵守できない時間帯がありました。改善を検討し、監視を継続してまいります。

振動測定では、全ての時間帯で基準を遵守できています。

◆ 臭気測定〈外部業者に委託〉

悪臭防止法及び条例で定められた袋井市の臭気基準は、全域で臭気指数13以下と定められています。

法令の遵守状況を確認するため、自主モニタリングで年1回外部業者に臭気指数の測定を依頼し実施しています。

- ①測定場所：サイト敷地境界4ヶ所
- ②測定頻度：1回/年



● 2023年度測定(4月19日サンプリング、天候：曇り)
敷地境界4箇所でサンプリングし、外部業者に測定を依頼しました。
袋井市の基準(臭気指数13以下)を4箇所中1ヶ所で遵守できませんでした。
臭気は、天候・風向き等の影響を受け易く、飛散状況が変化するものです。今後も監視と臭気対策を継続してまいります。

◆ 排水浄化の取組み

＜水質検査測定は、月2回以上外部委託業者に依頼し実施しています。＞

当社の本社工場では、年間約20万m³の水を排出しています。自社の排水処理施設で排水を浄化して河川に放流しています。



当社の処理施設は、有機物を微生物によって分解する「活性汚泥法」により浄化しています。

浄化された水は、日々担当者が状態を確認して放流しており、袋井市と締結している「環境保全協定」により定められた基準に基づき、pH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質)を月2回外部業者に委託し検査を実施しています。



IV.地球温暖化防止への取組み



◆ 工場での取組み

CO₂排出量は、2018年度比で7.4%削減しました。

◆ 事業場での取組み

- ・記録類等のデータ化(ペーパーレス化)を推進しています。
- ・オフィスにおける休憩時間の照明オフを実施し、使用電力削減に努めています。

◆ 過去の取組み(※削減率は、原単位「年間CO₂排出量/生産数量」から算出)

- ・2011年1月 LNGへの使用エネルギー変換(A重油からLNGに変換)
- ・2013年9月 コージェネレーション設備(995kWh)導入
- ・2018年8月 工場敷地内全照明LED化
- ・2021年2月 コージェネレーション設備(450kWh)導入
- ・2024年1月 工場屋上に太陽光パネルを設置
(システム出力62.5 kW)



V.環境コミュニケーション



11 住み続けられる
まちづくりを



- ◆ 定期的な清掃活動〈本社工場周辺〉
定期的に、本社工場周辺地域の清掃活動を実施しています。
(コロナ禍のため2022年度は実施できませんでしたが再開しました。)



V.環境コミュニケーション

◆施設の無料貸出

グラウンド・駐車場等、地域イベント開催維持に無料貸出を実施しています。



V.環境コミュニケーション



11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



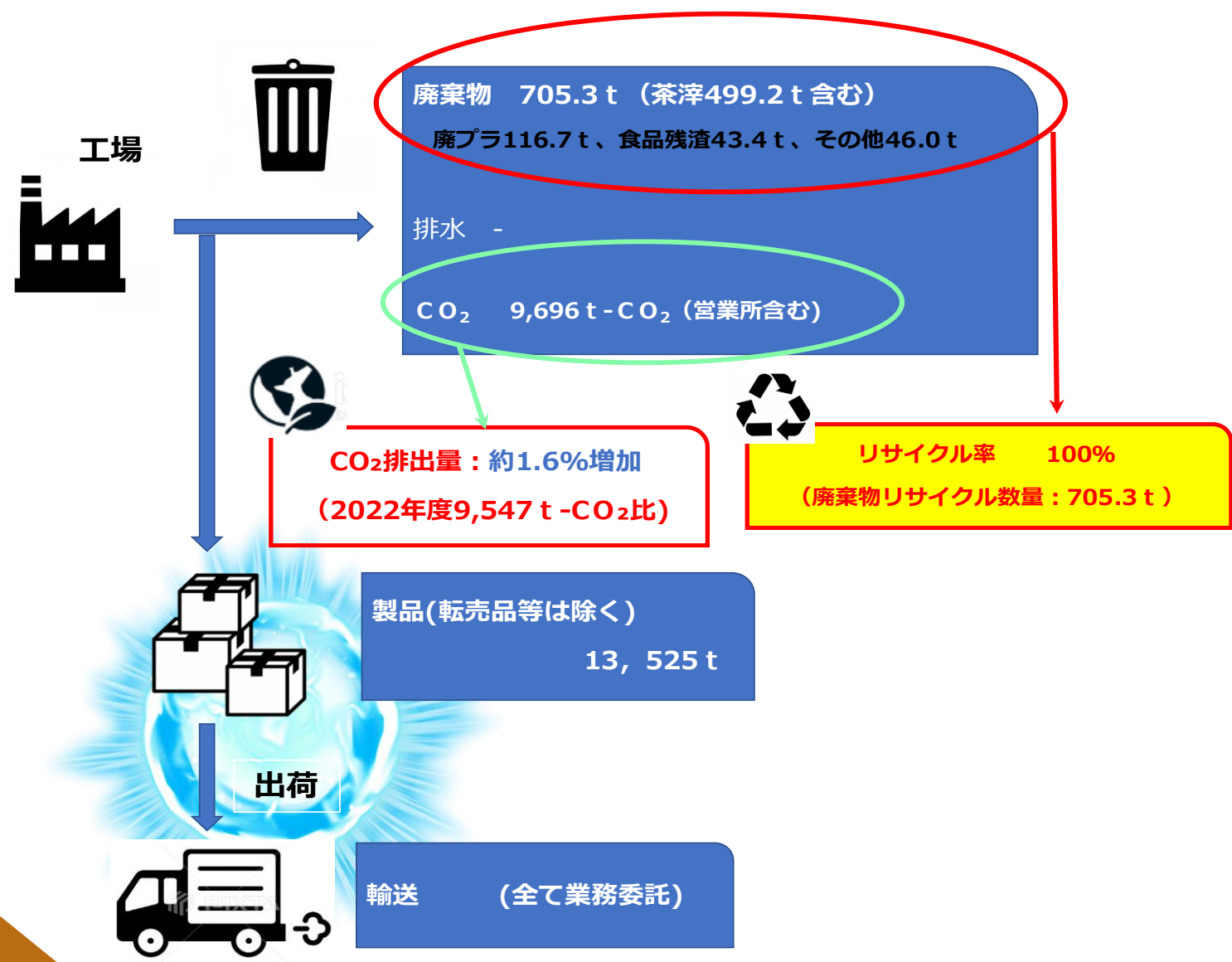
◆ 堆肥の支給

茶滓堆肥を地域住民の希望者に継続的に支給しています。



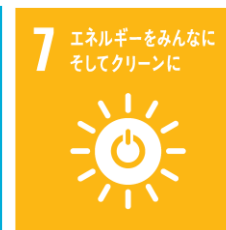
自社農園(オーガニック農園)
自社農園で茶殻堆肥を使用
しています。

VI.工場における物質とエネルギーの流れ



※エネルギー使用量、CO₂排出量は、営業所を含みます。
※その他の数字は、本社工場の使用量、排出量です。

Ⅶ.環境目標及び実績



2023年度は、生産数量が前年に比べ減少(約390トﾝ減少)していることと、減少に伴いエネルギー使用効率が低下しているため、LNG使用量原単位は増加しました。

「電気使用量・原単位」は、コージェネレーション設備(950kWh、450kWh)稼働増加で減少しました。

2022年度設定目標の「電気使用量・原単位」「LNG使用量・原単位」「市水使用量・原単位」「廃棄ポリ量・原単位」4項目の環境目標の内、「電気使用量・原単位」「廃棄ポリ量・原単位」の2項目の目標達成することができました。

※KPIとは、Key Performance Indicatorの略で重要業績評価指標のことです。

※目標値は、基準年(2019年実績)に対する目標です。

※原単位とは、製品1トﾝ当たりの使用量・排出量を表すものです。

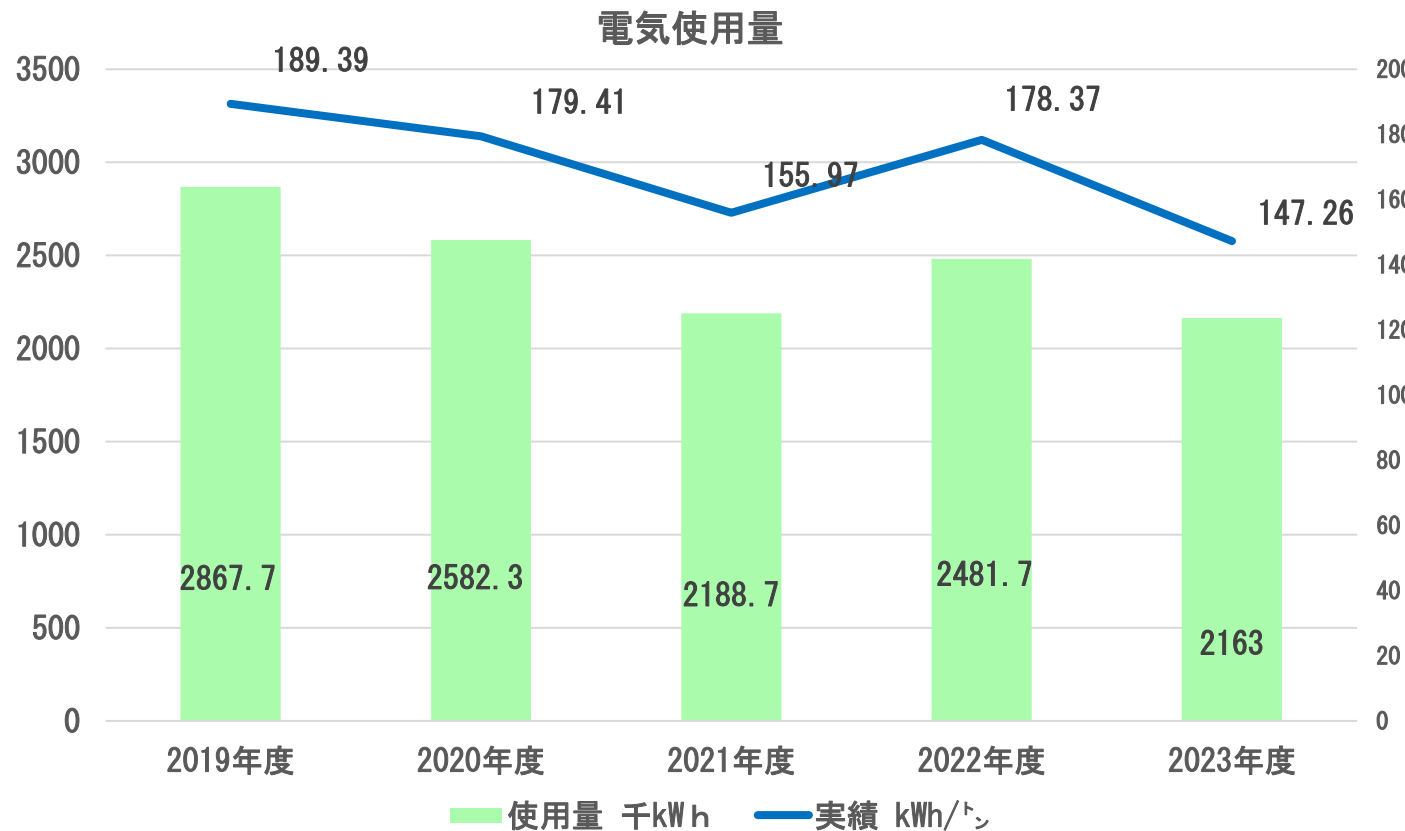
※SBTとは、「Science-based Targets」の頭文字を取った略称で、「科学的根拠に基づく目標」のことです。

※SBTiとは、「企業を対象にした国際的な温室効果ガス排出削減目標」のことです。機関投資家向けに世界主要企業の環境活動についての情報を開示する組織等の連合体により運営されています。



環境目標及び実績

KPI	目標(基準年：2022年度)
電気使用量原単位指数	1.0%削減



目標達成:17.4%削減

◆コージェネレーション設備2基(950kWh、450kWh)の稼働増加で、基準年比1%削減目標を達成、**基準年の17.4%削減となり目標を大幅に達成しました。**

※自家発電による電気量は使用量に含まれていません。コージェネ設備がトラブル無く常時稼働すれば削減が期待できます。

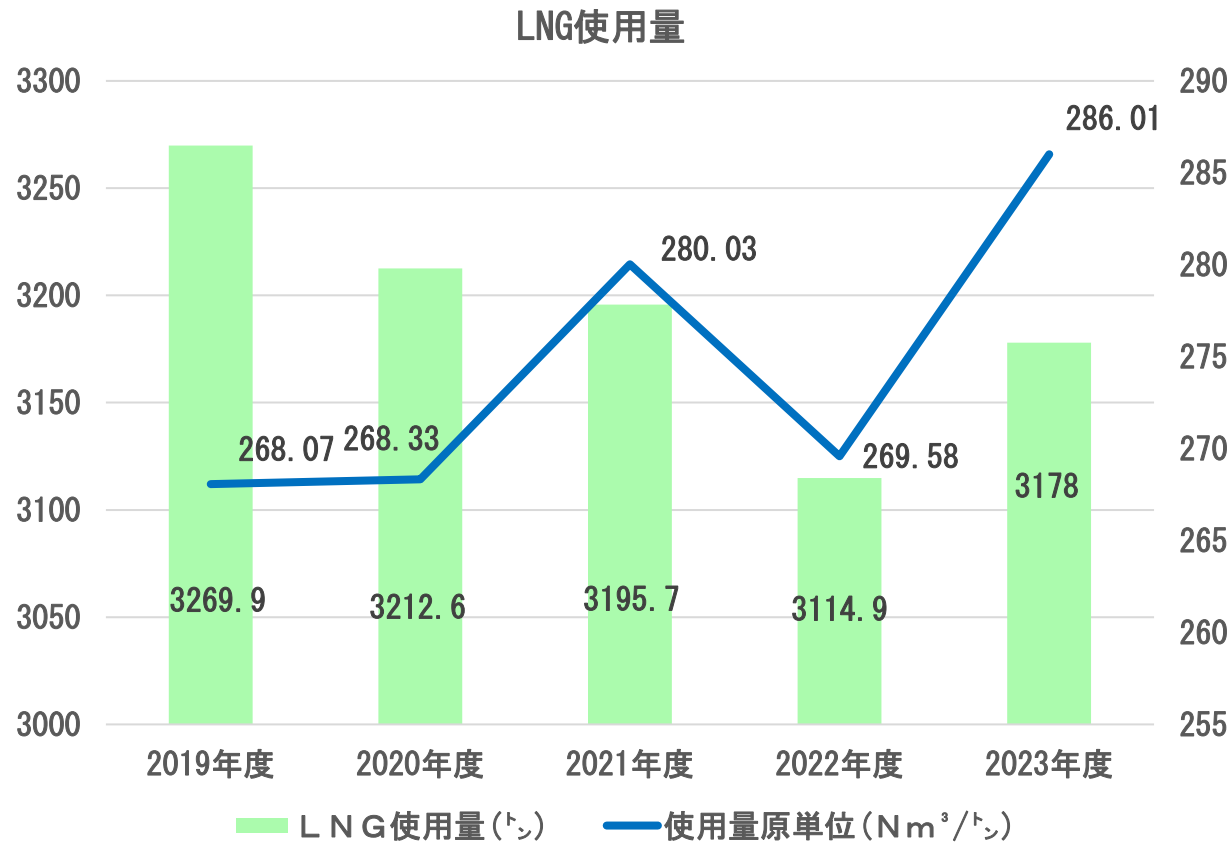
※SBTi:Scope2に関する電気使用量です。

環境目標及び実績



KPI	目標(基準年：2022年度)
LNG使用量原単位指数	3.0%増加

目標未達：6.1%増加



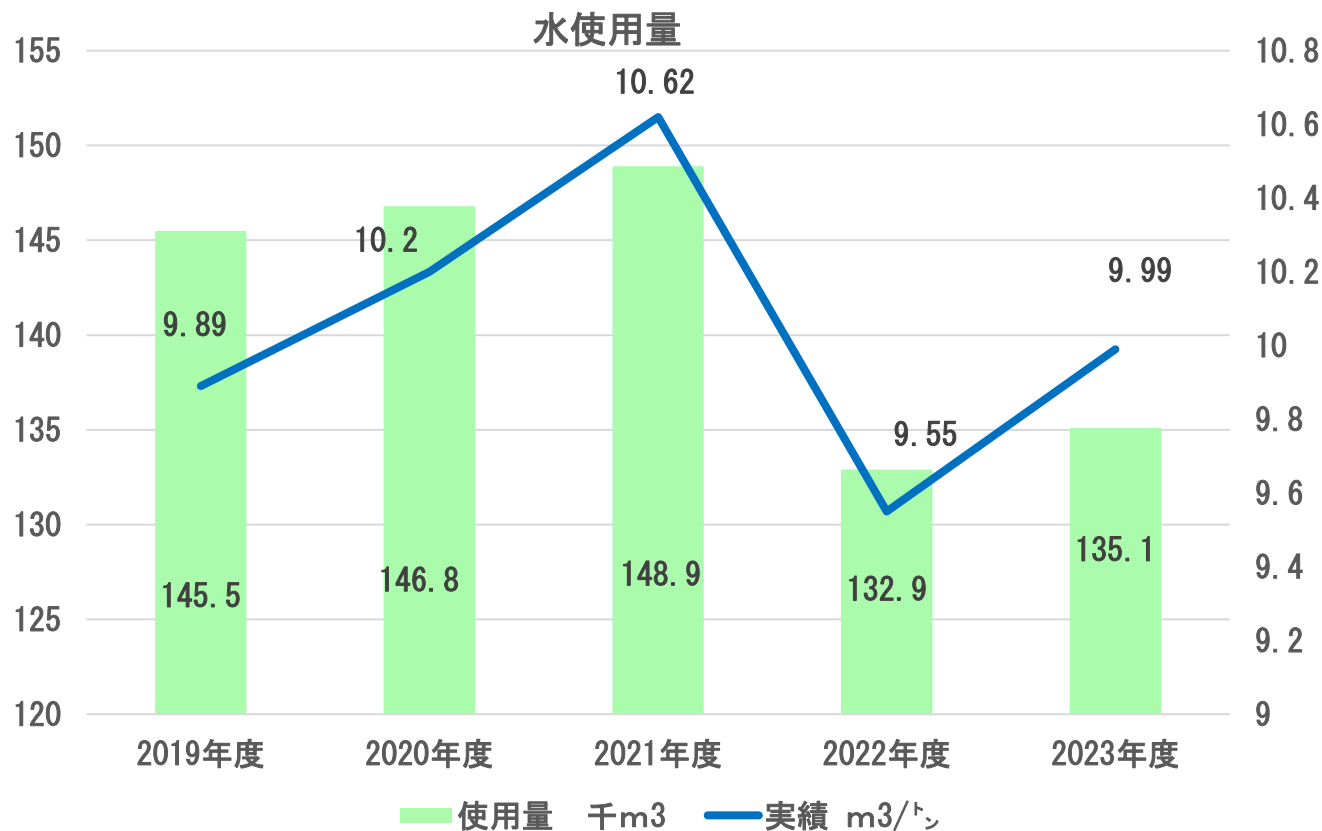
◆ LNG導入後、LNG使用量は増加傾向にありましたが、2022年度は2020、2021年度に次いでさらに減少しました（棒グラフ参照）。2019年度比で2020年から生産数量が減少していることが大きな要因です。

◆ 原単位では、コージェネ導入(450 kWh)し使用量増加する見込みのため目標を3.0%増加に変更しました。結果は、6.1%増加となり目標未達でした。

※SBTi:Scope1に関するLNG使用量です。

環境目標及び実績

KPI	目標(基準年：2022年度)
水使用量原単位指数	1.0%削減



目標未達：4.6%増加

◆水使用量は、ライン切替え洗浄等の影響で増加傾向です。2020年度以降は、増加傾向(棒グラフ参照)でしたが、2022年度より使用水の再利用改善を実施し、使用量を減少させています。

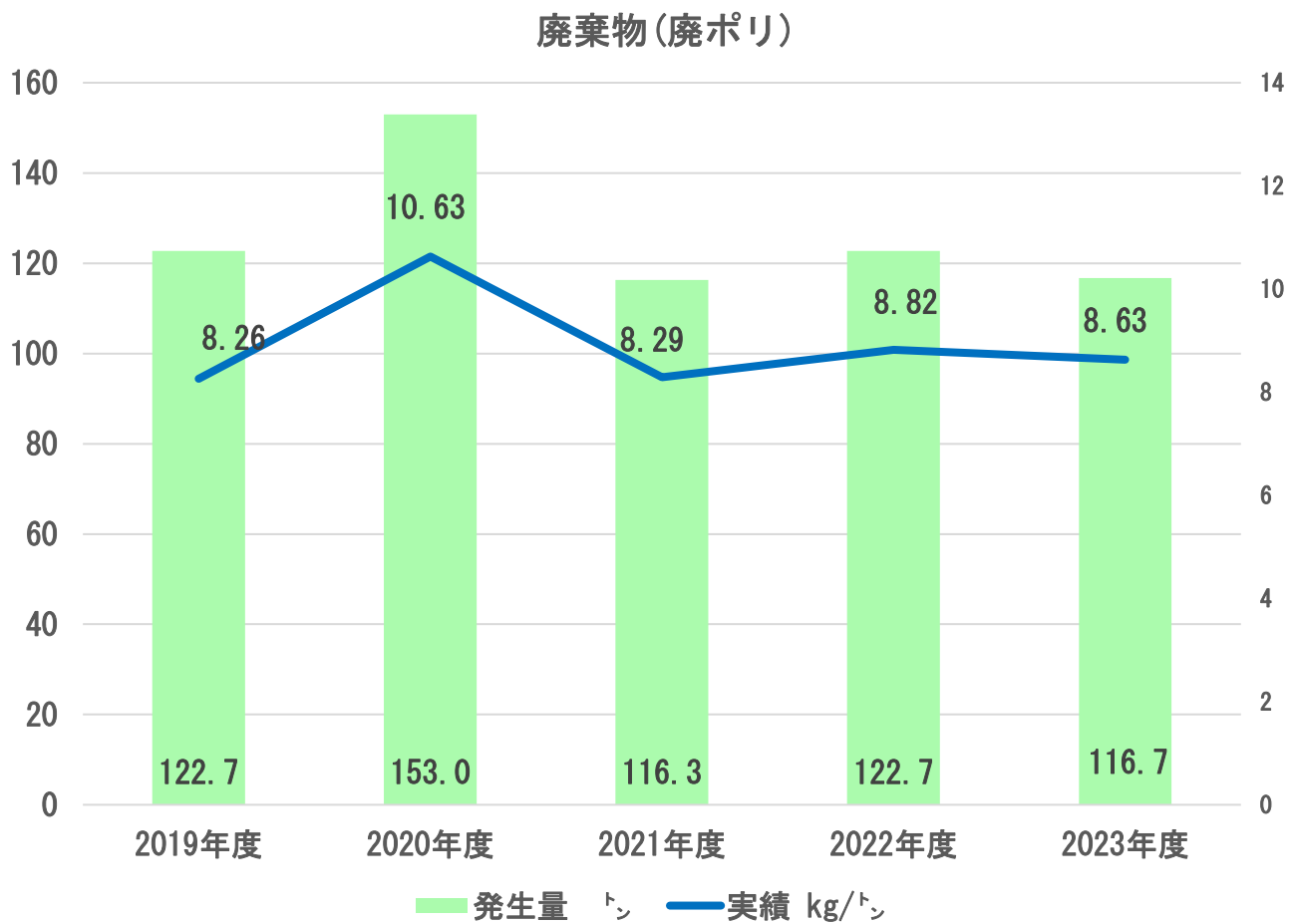
◆原単位では、基準年(2022年度)比1.0%削減目標に対し、**4.6%増加**となり目標未達でした。

環境目標及び実績



KPI	目標(基準年：2022年度)
廃棄物(廃ポリ)排出量原単位指数	1.0%削減

目標達成：2.2%削減



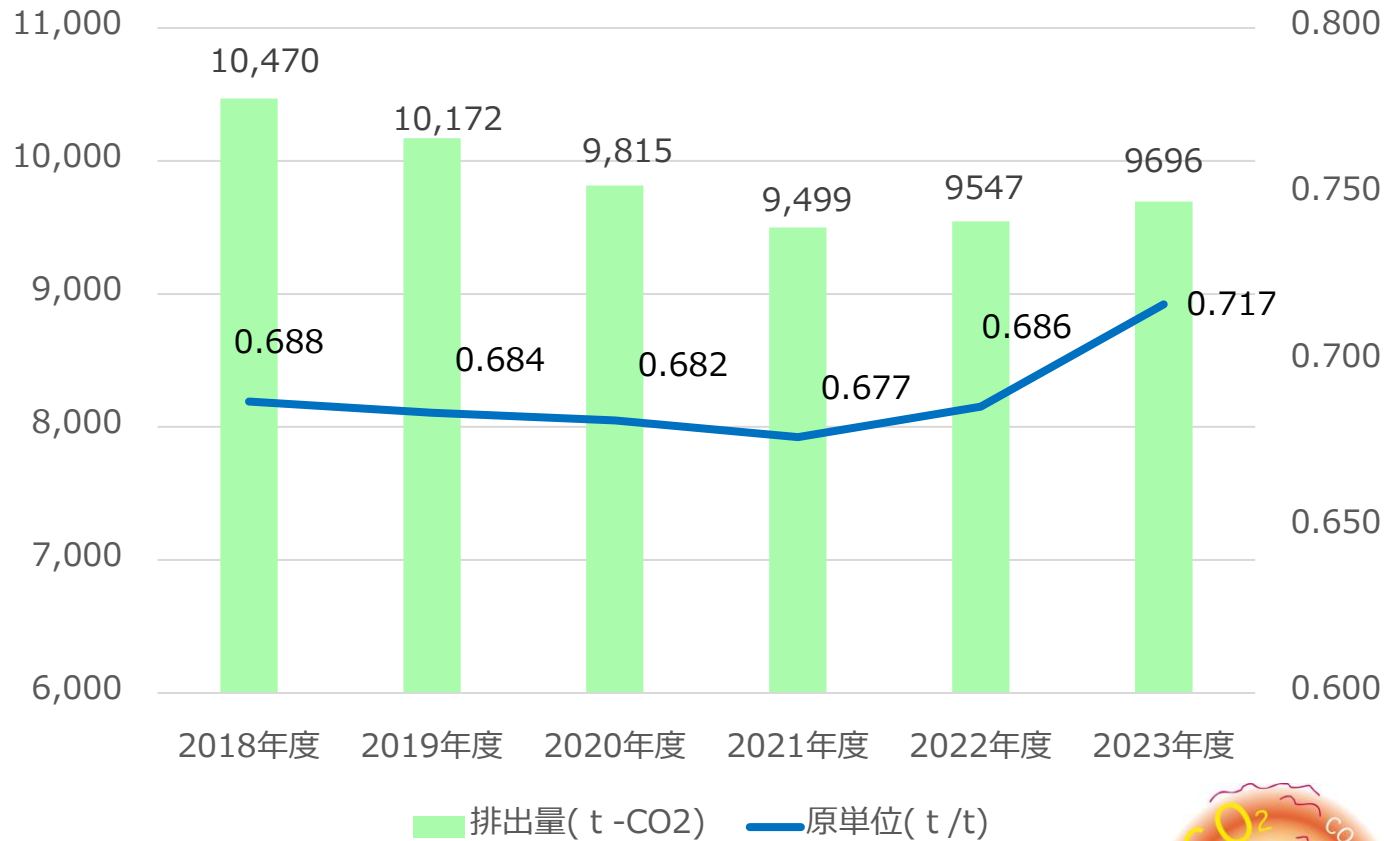
◆廃ポリ排出量は、廃棄物処理の社会的状況変化(中国への輸出不可等)があり、2017年度以降、有価物処理していたものが廃ポリとして処理することになり、排出量が増加していました(棒グラフ参照)。

◆原単位では、基準年(2022年度)比1.0%削減は達成で**2.2%削減**という結果となりました。有価物処理できていた廃棄物が、通年で廃棄物(廃ポリ)として廃棄見込みでしたが、再有価物処理が可能となり、目標を達成することができています(2021年度より)。

GHG(温室効果ガス)排出実績



GHG(温室効果ガス)排出量

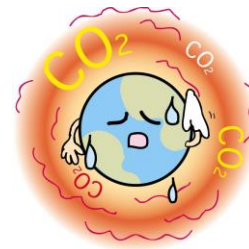


原単位：0.6%削減
(2018年度比)

◆GHG排出量は、基準年(2018年度)比**7.4%削減**という結果となりました。2022年比では**1.6%増加**となりました。

◆原単位では、基準年(2018年度)比**4.2%増加**という結果となりました。効率良いエネルギー使用を継続し、次年度も削減を継続して参ります。

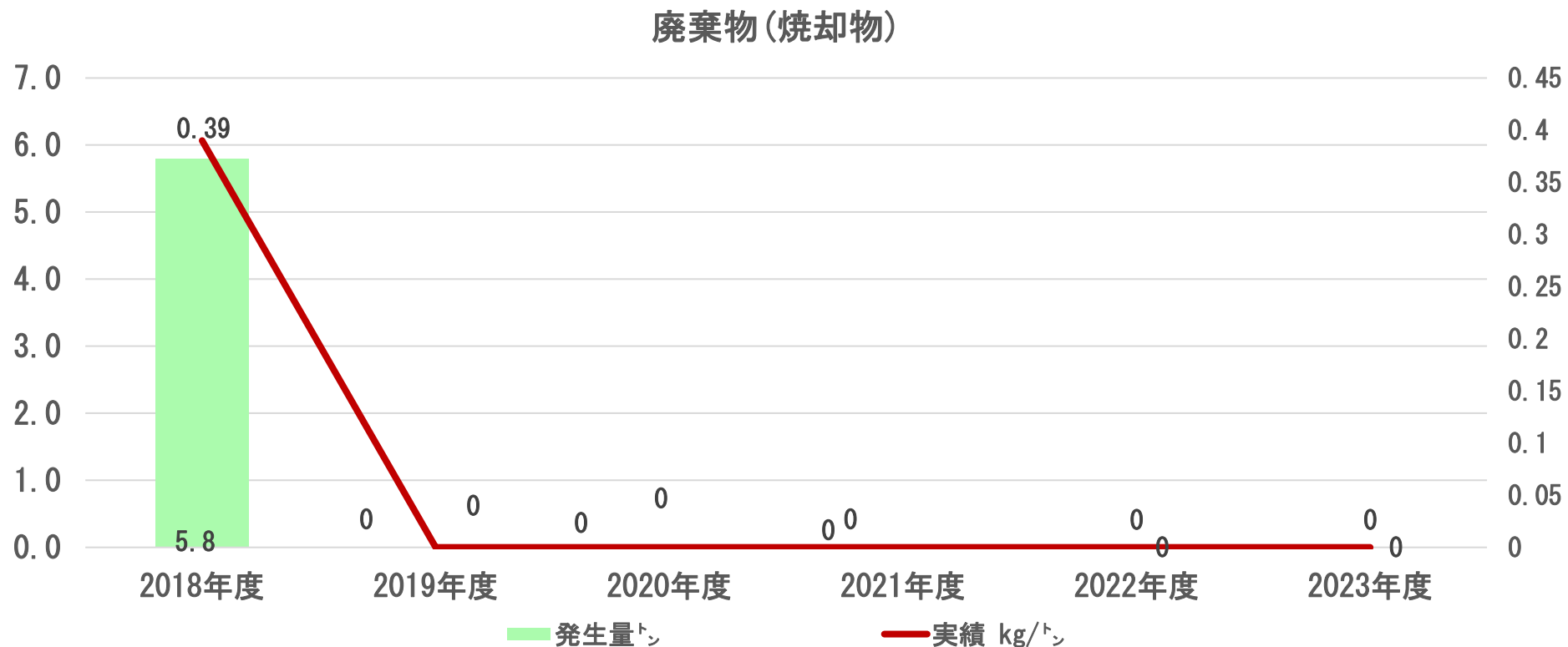
※SBTi:Scope1のGHG総排出量です。





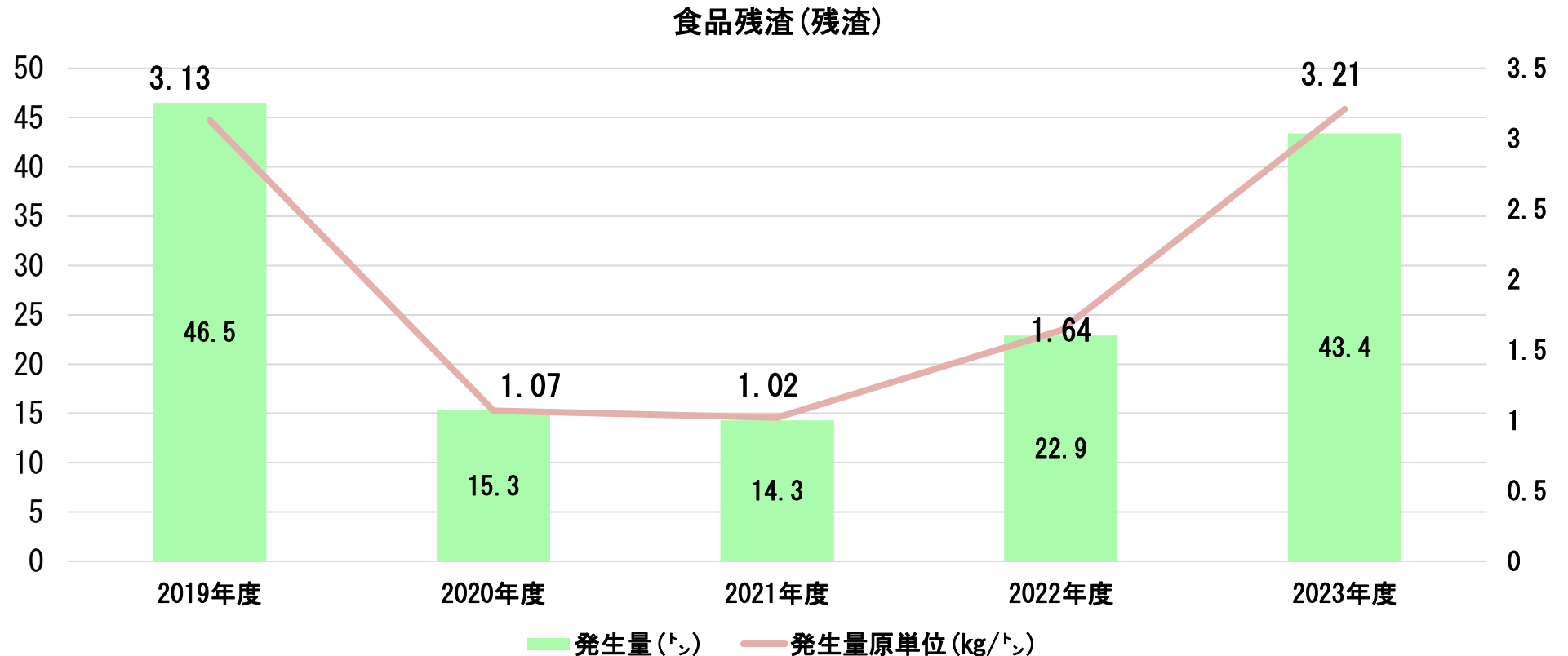
VIII. その他環境負荷データの推移

廃棄物(焼却物)排出量・原単位



- ◆ 焼却物排出量は、廃棄物処理の社会的状況変化(中国への輸出不可等)があり、処理方法が変更となったため、2019年度より排出量はゼロです。
- ◆ 原単位では、2019年度には排出量・原単位ともゼロとなり、今後も継続見込みのため、2020年度より環境目標から除いています。

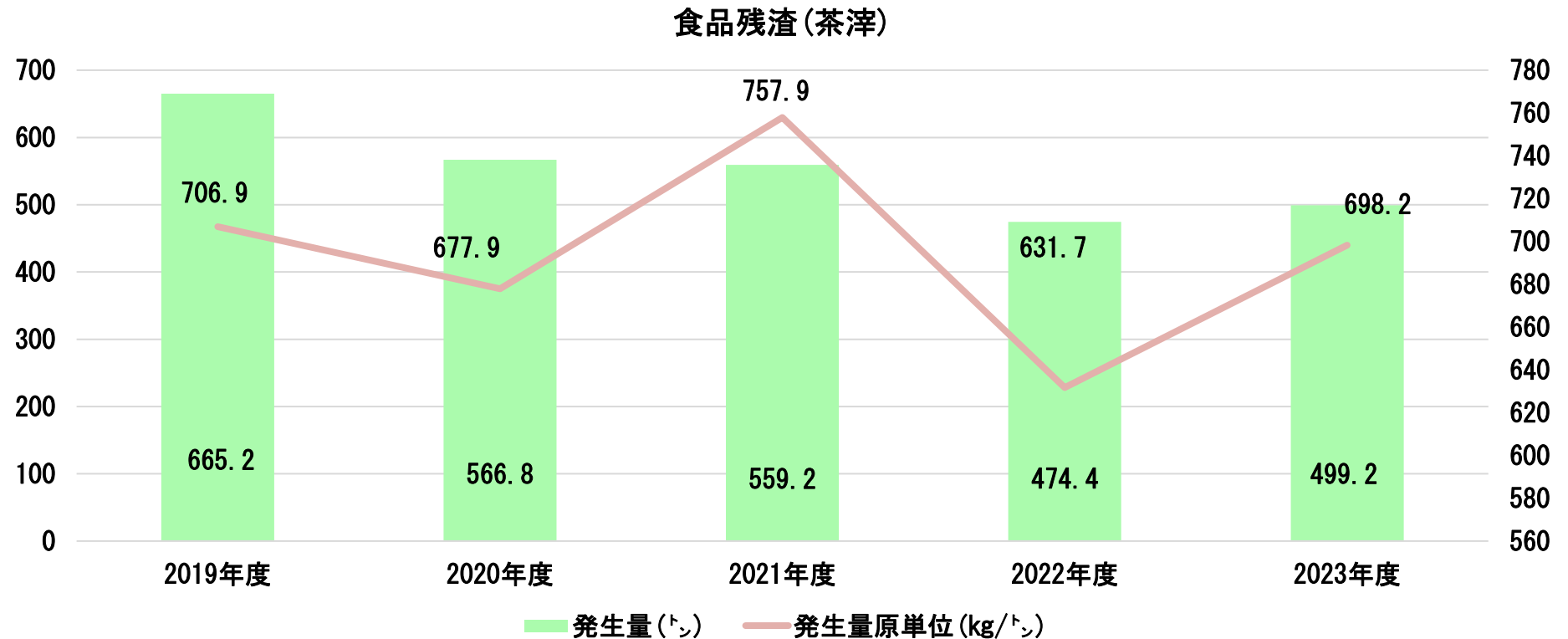
Ⅷ. その他環境負荷データの推移 残渣(食品残渣)排出量・原単位



◆発生量・原単位とも年度により変化しますが、原料異常による排出は減少しています。
発生した残渣は、堆肥又はメタン発酵処理し100%リサイクルしています。

VIII. その他環境負荷データの推移

残渣(茶滓)排出量・原単位

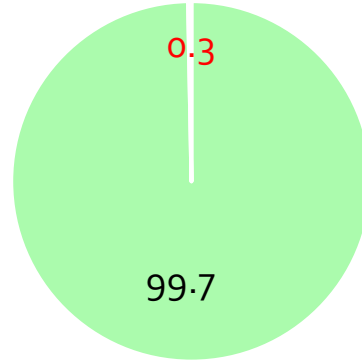


◆インスタントティーの製造残渣である茶滓が、年間950ト以上発生するようになった為、2014年度に脱水機を導入し現在に至っています。発生した茶滓は、外部処理委託で全て堆肥化し自社農園等に使用し、100%リサイクルしています。

IX. 当社全事業所のエネルギー使用量



エネルギー使用量割合 (2023)

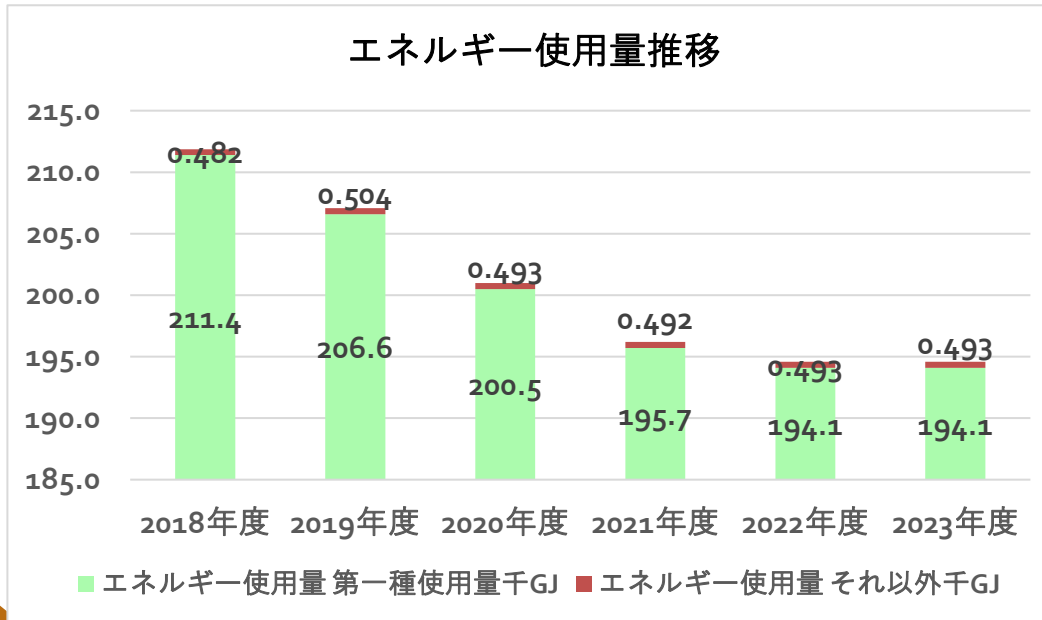


■ 第一種使用量(%)

◆本社工場は、第一種エネルギー管理指定工場であり、東京・大阪に営業所を持つ特定事業者です。
特定事業者としてのエネルギー使用量は**194千GJ**で、約99.7%を本社工場で使用しています。

◆エネルギー管理指定工場では、エネルギー使用量は、基準年(2018年度)から**約8.0%減少**しました。生産数量が減少(約1701 t 減少：基準年比)していることが、使用エネルギー減少の大きな原因です。

エネルギー使用量推移



X.環境関連への違反・訴訟の有無



- ◆2023年度において、環境関連法規の遵守状況を確認した結果、2件の不遵守事項がありました。
また、関係当局及び地域住民の皆様等による違反の指摘及び訴訟はありません。

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
環境法規の不遵守事項	2件(臭気指数、稼働時騒音)	2件(臭気指数、稼働時騒音)	1件 (稼働時騒音)	2件(臭気指数、稼働時騒音)	2件(臭気指数、稼働時騒音)
環境に関する訴訟・罰金等	無し	無し	無し	無し	無し

※改善が大変難しい事項ですが、改善を考慮した監視を継続してまいります。



NIKKEN

日研フード株式会社

〒437-0122

静岡県袋井市春岡723-1

TEL:0538-49-0121

FAX:0538-49-1414

